

広島県インカレ結果報告

広島大学体育会バレーボール部同窓生の皆様

(同窓会連絡フォームへ登録いただいた皆様及び同窓会やコートの仲間等でご連絡いただいた皆様へお送りしています。)

いつも大変お世話になっております。

広島大学体育会バレーボール部です。

11/8 に広島経済大学体育館において、広島県インカレが開催されました。

広島大学の結果は、以下のとおりです。

(男子)

【広島大学 B】

1 回戦 vs 広島経済大学 B

○2-1 (21-25、25-16、25-22)

2 回戦 vs 福山平成大学 A

●0-2 (16-25、19-25)

【広島大学 A】

2 回戦 vs 福山平成大学 B

●1-2 (25-23、12-25、23-25)

(女子)

2 回戦 vs 広島文化学園大学 A

●0-2 (12-25、9-25)

順位決定戦 vs 広島修道大学

○2-0 (25-20、25-17)

(広大バレー部 X (Twitter))

<https://x.com/hirodaiVOLLEY>

女子は 4 大学 5 チームのみの参加となり、入替戦からわずか 5 日後ともあって目標設定が難しく、1 試合目は相手の時間差攻撃にされるがままで、2 試合目は相手に合わせる場面が目立ちました。課題は前回と同じですが、強いて言えば、西岡 (2 年・兵庫・姫路高校) のバックアタックと中道 (2 年・広島・基町高校) の移動攻撃で良い形が 1 本あったことと、平山 (1 年・広島高校) の前のボールに対するレシーブが収穫だったと思います。女子の今

年の公式戦はこれで全てが終了し、来年の春リーグまで 5 か月間のオフシーズンに突入します。昨年は大石（2 年・宮崎・延岡高校）のセッター転向と言う明確な軸をもとにチームとしてまとまった練習が出来ていましたが、入替戦以降で見ると、今夏、昨夏と、短いスパンの目標設定がないことがチームの停滞につながりました。高校とは異なり、自分たちで考えていると様々な場面で言ったり思ったりしていると思いますが、その「自分たちで考えること」が決して上手ではないことをまずは受け止めないといけません。自分たちで考えると言うのは、決して自分たちだけで考えることではありません。自分たち以外の人たちに積極的に働きかけ、自分たちだけでは得られない視点や意見を日常的にたくさんもらえるようになってこそ、「自分たち」の分母が広がり、豊かなアイデアに包まれた練習ができるようになるものです。内外で壁を作らずにアプローチ出来ていた東（4 年・愛媛・宇和島東高校）が引退し、チームが内に向くか、それとも外に向くか、これからがチームの今後を占う大きな分岐点となります。今のまま、今までのままでは今年を超える結果は出ないことを、まずは時間をかけてでも全員で理解し、共通の認識を持ってスタートすることが大切です。

男子はリーグ戦のスターティングメンバーが A チーム、アップゾーンメンバーが B チームとして出場しました。A チームは 2 セット目途中にエースの山下（4 年・広島・安古市高校）がアクシデントで交代し、3 セット目には復帰してくれたものの、100%ではないとチームに不安が広がるのは仕方がないことで、最後はその差で競り負けた印象です。内容としては決して悪くなく、向かってくる相手に対して落ち着いてブロックから切り返し、セッターの後ろ側から川村（1 年・東京・日本大学第三高校）が飛び込んで決めるなど、静と動のメリハリが利いていて、まだまだ上を目指せる頼もしいチームだと改めて感じました。全日本インカレの組合せが決まり、1 回戦を突破することができれば 2 回戦で優勝候補の第 1 シード校と対戦する可能性もありますので、いずれの試合も勝ちに行くことができるように、体の状態には十分留意しつつ、残り 3 週間で階段を上れるだけ上って欲しいと思います。

B チームの試合は、力差で 2 チームに分けたときで言えば、文句なしで過去一番の内容でした。まずは何と言っても、センター加藤（4 年・愛知・安城東高校）の圧倒的な存在感です。1 年生の頃と比べて、高さや速さが劇的に変わったと言うよりは、精神面で逞しくなったことで終始落ち着いたプレーが光りました。いつもアップゾーンから誰よりも大きな声で広大の雰囲気を読み取ってくれている加藤が、コートに入って後輩たちの精神的支柱として活躍する姿はとても感慨深く、リベロチェンジでベンチに下がっても椅子に背をつけることなくずっとコート内に声をかけ続けてくれました。ベンチでの姿勢と言うのは、絶対に隠し切れない人間の本質的な部分が現れるもので、この日の加藤を見て、加藤がこれまでの全ての試合に、コート内のメンバーと同じようにアップゾーンから「出場」していたことが鮮明に伝わってきました。やった方が良くてもやらなくても良いこと、に対してその必要性を理解して自分の力を注げることは非常に大切なことで、その積み重ねが揺るぎない信頼に

つながるのだと思います。ワンボールの試合で自コートのアウトボールを線審に任せて取りに行かないような選手も多い中、加藤のひたむきな姿勢は体育館にいる多くの人たちにとってのお手本でした。加藤のような努力を続けていても結果が出ずに評価されないことは今後もあるかと思いますが、目に見えることが全てではありませんので、信念を持って取り組んで欲しいと思います。

レフトの北村（1年・兵庫・須磨翔風高校）は、リーグ戦では山下に代わって出場する度に着実に力をつけ、最終週の島根大学戦で一つ殻を破り、今大会ではまた一つ成長を見せてくれました。これまではスパイクの際にぶら下がってしまい、完成されたブロックにかかることが多い印象がありましたが、空中でゆとりが持てるようになったことで、溜めることなく高い位置から綺麗にボールを落とすことが出来ていました。スパイクに限らず全てのプレーにおいて選択肢が増えようとしている段階で、北村自身も感じていることと思いますが、今は一番と言っていいほどの伸び盛りです。表情には波がありますが、表情ほどプレーに波があるとは思いません。自信を持ってプレーすることが、自分にとっても周りにとってもプラスになると思いますので、4年生の両レフトから多くのことを学び、吸収して欲しいと思います。そして、個人的に一番衝撃を受けたのは、加藤の対角で出場したセンターの浦野（1年・愛知・名古屋西高校）でした。今のチームはほとんどのポジションで上級生がスタメンを占め、世代交代が大きな課題ですが、センターは川村一人がリードしているかと思いきや、浦野のパフォーマンスレベルの高さに驚かされました。とにかく基本の動作がどれも力強く美しく、見ていて崩れる気がしないと言うか、土台がしっかりしていることで動きに無駄がなく、176cm以上のプレーが出来ていました。周りもよく見えていて、体はこれから鍛えられることを考えると、来年の活躍が楽しみでなりません。男子は1部に広島文化学園大学が昇格し、3位や4位はもう決して安泰ではありません。来春からは私立大ばかりの1部リーグになりますが、それでも広大が上位で居続けられるよう、新チームのメンバーに期待しています。

12/2からは今年最後の大会、全日本インカレが開催され、秋季リーグ戦1部3位で出場権を獲得した広島大学男子が出場します。

12月2日（火）大田区総合体育館Aコート第3試合（12時30分頃開始）

1回戦 vs 北海道大学（北海道学連1部2位）

（大田区総合体育館アクセス）

<https://www.ota.esforta.jp/access/>

2019年以来、6年ぶりの1勝を目指します。

引き続きよろしく願いいたします。